Vol.
002

BUNBU

関西国際学園 初等部 教育白書

Elementary School
Education white paper

新春対談

未生流笹岡 家元
笹岡 隆甫 氏

「学校教育に生け花を！」

子どもたちから「生け花」質問

博友会 報告

IBコンサルタント訪問

ハンガリー国立大学医学部
説明会報告

日本の大学のIB入試情報

学園長 著書より

関西国際学園 初等部 年間スケジュール

5月30日(土)　KIAフェスティバル
6月14日(日)　第1回 学校説明会
6月23日(火)　第1回 体験・見学会
7月　1日(水)　第2回 体験・見学会
7月　9日(木)　第3回 体験・見学会
7月12日(日)　第2回 学校説明会
8月22日(土)　第3回 学校説明会
▶ 9月5(土)6(日)　第1回 入学試験(内部生)
9月27日(日)　第4回 学校説明会
9月29日(火)　第4回 体験・見学会
▶ 10月10(土)11(日)　第2回 入学試験
10月24日(土)　第5回 学校説明会
11月　5日(木)　第5回 体験・見学会
11月29日(日)　第6回 学校説明会
▶ 12月12日(土)　第3回 入学試験
▶ 1月31日(日)　第4回 入学試験

入学（編入）に関してのご相談は、お気軽にお問合せください。
関西国際学園 初等部　TEL.078-882-6680

NEXT ISSUE
Vol.03

対談ゲスト
株式会社ディー・エヌ・エー
取締役ファウンダー
横浜DeNAベイスターズ
取締役オーナー
南場 智子
Tomoko Nanba

BUNBU 次号予告

関西国際学園
公式 FaceBook

KANSAI INTERNATIONAL ACADEMY

2015.2.16 発行 Vol.2 関西国際学園 広報部

新春対談

華道「未生流笹岡」家元　笹岡 隆甫 × 関西国際学園 学園長　中村 久美子

2015年1月20日　関西国際学園 神戸校

学校教育の中に生け花を。

笹岡 隆甫　ryuho sasaoka

華道「未生流笹岡」家元
1974年京都生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。
3歳より祖父である二代家元笹岡勲甫の指導を受け、2011年三代家元を継承。
舞台芸術としてのいけばなの可能性を追求し、国内外で花手前(いけばなパフォーマンス)を披露。
近著に『いけばな』(新潮新書)。京都ノートルダム女子大学客員教授。

中村:アスリートを育てる教育機関がアメリカにあって、東京ドーム何十個分の敷地内に、テニスコートは20面、サッカー、野球、アメフトとそれぞれの設備があり、そこに10代の子どもたちが世界中から集まっているんです。

笹岡:そこに行かせる親がすごいですね(笑)

中村:錦織圭くんが12歳の時にテーブルを囲みながら、英語が出来なくて辛い思いをして泣いた。そんな時、松岡修造さんが厳しい一言をかけた。「発言しないと意味がない。話せ!」「しゃべれ!」メンタル的に弱かった彼をマイケル・チャンコーチが強化したと言われてますね。

笹岡:メンタルですか?

中村:人はできることをしていると成長をしない。できないことをしてこそ成長する。そこには苦しみがある。あんなに素晴らしいアスリートの人でさえ苦労して今がある。笹岡さんは、弟さんが弁護士、ご自身も京都大学ですよね?

名前を継ぐということ

笹岡:私は長男で母方の祖父の養子で入りました。3人兄弟で、妹と弟がいます。私が祖父の家に養子に入って名字が変わり、家族の中で私だけが笹岡となりました。

母方の祖父の名字を名乗っていて、妹、弟、両親は父の名字を語っています。そこが変わっていますよね。

中村:養子にいかれても、住むのは普通に家族と住まれている。名前だけですか?

花をいけることもある意味、
日常の出来事です。

笹岡：祖父の家に女の子しかいなくて、私の母とその妹だったんですけど、当時40年前くらいかな、男の子が継ぐということだったので、一代飛ばして私が継ぐことに祖父が決めました。そのために私は養子に入りました。

中村：それは生まれてすぐのことでしたか？

笹岡：私が３歳の時です。私の弟が生まれたので父方の名前は継ぐものがいたので私が入りました。

中村：プレッシャーですよね。お母さんは。
男の子を生まなければならないっていうのは。

笹岡：しかも私が帝王切開で生まれたものですから、当時帝王切開では２人しか産めなかったそうですから。２人目（妹）が生まれるときは気をつけなければならなかった。いろいろ苦労はありました。

中村：わあーすごーいですね！お母さまもお子さまを京都大学、弁護士と、どのようにしたらそのように育つのでしょうか？
子どもの時はどのようなお子さんだったんですか？

笹岡：私の母は、率先して教育ママをしようとはしませんでした。周りの方同様よいと思われる幼稚園に行かせました。別にどこの学校に行けということもなかったです。私は、カトリックの小学校に通っていました。それは、母が通っていた学校でした。
そこに行かせたいという気持ちは、あったようです。幼稚園から高校までカトリックの学校に通っていました。

中村：どのあたりから自分は継がなければならないと思ったんですか？

笹岡：名前がそうなんで（笑）！

中村：無理やりだとか、嫌だという気持ちはなかったんですか？

笹岡：特にありませんでした。物心がついたときは、すでにそういう状況で、周りの先生方も、私に対して家元の跡取りとして接してくださった。私のことを孫や子どものようにかわいがってくれました。今でも、年配の先生方にとっては私は孫のような存在です。
継ぎたいとか、継ぎたくないと言う前に当たり前の状況でした。

中村：なるほど！当たり前ね！？

笹岡：花をいけることもある意味、日常の出来事です。

中村：環境ですね。自然となっているんですね。お子さんは2人ですね。

最初の壁

笹岡：もう一人ほしい気もします。上はもうすぐ4歳になります。下が2歳です。

中村：上が女の子で、下は男の子ですね。

笹岡：長女に聞いてみたら、もういいって言ってました。（笑）
私が大きくなって子どもを生むからもういいって。

中村：ああ、そうなんですか？

笹岡：計算してるんですよ。3人目ができたらお母さんがとられるからですかね。

中村：それはあると思います。私にも3人子どもがいて、同じことを言ってました。（笑）
3人目生んでわかったことは「3人生んで一人前」という言葉があって、1人目って過剰に育てて、手をかけすぎて、慎重すぎて、母親もそうなりすぎてよく手を洗っていました。あるとき、はいはいしている息子が玄関で靴を食べていて、その瞬間これまでしてきたことをやめました。それから２人目が生まれて、３人目のときにあきらめますね。そこで初めて子どもが自立をしますね。母親も子どもから離れますね。

笹岡：でも手をかけてしまいますよね。

中村：2人だとしんどいですけど、3人目は仲良く生きていってという感じですね。

笹岡：かもしれませんね。上の子はなかなか無視しづらいところがありますね。

中村：いや！無視したらいいんです！無視して、ある程度の理不尽さをわからせること。私も長女で兄、私、妹、弟なんですけど、昔はある程度、男尊女卑ということがあって「お兄さんのためにやりなさい」「妹・弟のためにあなたがやりなさい」って、すごく理不尽さを感じていましたけど、だから早く自立したいと思っていました。私は、女中ではないと言ったことがありますけどね。でも、それが早く家を出たいという自立につながったと思います。ある種、家が居心地がいい空間であってはいけない。

笹岡：そうですね。今の親はやさしいですよね。

ある程度の理不尽さをわからせること。

中村：お父さんはどのような方ですか？

笹岡：普段は優しいですが、怒ると怖いです。たまに雷が落ちると怖かったです。

中村：親って最初の壁になるべきだと思います。今の子は、いい子なんだけれども、自立心がない。

環境が与えるもの

笹岡：もともと、花はきらいではありませんでした。幼い時から花をさわっていましたけど、花に触れるのは結構好きで、それが当たり前のように大きくなってきたので、そういう意味では、京都という場所で生まれて、めぐまれた環境にあったように思えます。

中村：お母さんは上手に育てられたんですね。ところで反抗期ってありましたか？

笹岡：いいえ、ありませんでした。

中村：本当ですか？！

笹岡：親はよく、反抗期は大学時代だったと言っています。

中村：どんな反抗ですか？

笹岡：大した反抗ではありませんでしたが、ただ家にいなかったということですかね（笑）

中村：笑・笑・笑！！！へえーそうなんですね。私は、いまだに反抗期ですから…。生まれた時から反抗期で、今や日本の教育制度に反抗していますけどね（笑）！

笹岡：自分のなかでハングリーさがないところがありますね。ハングリーでありたいと思います。

中村：ハングリーって、なんか笹岡さんではないですね！イライラしている家元って、ちょっと嫌かもしれない。

笹岡：今までの家元は、ドーンと座っているだけでよかったかもしれませんが、これからは、こちらからアピールをしなければならないと思います。

中村：今後の未生流笹岡をどのように引っ張っていこうとお考えですか？

笹岡：そうですね。流派というか、生け花全体ですね。1つは、学校教育の中に生け花を入れてしまうこと。私の暮らしている京都は文化に対する理解があり、積極的に取り入れているので、京都の学校にいれば、比較的生け花に接する機会が多いと思います。

全国的に言えば、少数ですが。まずは色々な学校で広めてもらうことですね。

中村：いいですね！素晴らしいと思います。

笹岡：もう一つは2020年東京オリンピック、パラリンピックで生け花を披露したいですね。

例えば、開会式で日本の華道家の共演を実現させて、日本人の花ってすごいんだなということを、結構海外では思われているのですが、それを日本人にも思い出してもらうきっかけにしてもらいたいです。

子どもたちから笹岡氏へ「生け花」質問

笹岡氏：この世の中を見たら、天と人と地球。この世の中を１つの器に再現しましょう！そんな形を作る。それが生け花の１つの考え方です。みんな帰ったら、何をするんだったけ？

生　徒：水を入れる！

笹岡氏：水を入れるんですよ。そして、明日もあさっても、見るんですよ！お世話もします。

生　徒：水はいつ入れるんですか？

笹岡氏：すぐに入れてください。また、お水がちょっとずつ少なくなっていきますから、お水がへっていたらまた足してください。

生　徒：みんな帰る時間が違うんですが、お花は大丈夫ですか？

笹岡氏：何時に帰っても大丈夫です。このオアシスは、吸収性なのですでに水を含んでいますから、今晩遅くなっても大丈夫ですよ。でも、帰るまでにお水は減っていくので、継ぎ足しましょう！

生　徒：水はどれくらい入れるのですか

笹岡氏：できるだけいっぱいです。お水がこぼれない程度に入れてください。

そして、この花の姿に、明日もあさっても目をとめてください。例えば、昨日までつぼみだったけれども、今日は開いたのを見つけてほしいんです。それを見る中で、いろいろ感じてほしいです。そして考えてほしいです。それが生け花です。

生　徒：どんな花でも生け花になるのですか？

笹岡氏：はい、良い質問ですね。どんな花でも生け花にはなります。そこにある葉っぱでも生け花になるし、雑草でも、たんぽぽでも生け花になります。でも、生け花はいけておしまいではないですからね！その花が変わっていくのをお世話しなければなりません。そこまですれば、どんな花でも生け花になります。

生　徒：いちばん好きな花は何ですか？

笹岡氏：私が一番好きな花は、今いけようとする花です。花って、季節ごとに変わりますよね。例えば、今なら菜の花とかがとても生き生きとしていますよね。春が深まっていくと、ボタンの花、桜、藤の花が順番に咲きはじめます。どの花が好きだといってしまうと幅が狭まってしまいます。常にいろんな花に目を配っていきたいなと思っています。

生　徒：ひまわりも生け花になると思いますか？

笹岡氏：どう思いますか？

生　徒：なる！

笹岡氏：なるが正解です。

生　徒：外に置いていても大丈夫ですか？

笹岡氏：難しい質問ですね。もともとは、そとに生えているから、ある程度は大丈夫。でも、根のついていない切り花はいたみやすい。特に、雨風には弱い。花は、できるだけ家に飾っておいた方が長く楽しめます。生け花ってもともと外に生えている花を家に持ち込むことから始まりました。道端に咲いている花ってきれいでしょ！で、それを見にいけばいいでしょ！

しかし、例えば病気で見にいけない場合だってありますよね。だから、その花を切って家に持ちこむことにしました。生け花って、そういうところから、始まっています。

Foundation of IKEBANA

博友会 ご報告

昨年、サントリーの社長に就任された新浪剛史氏の講演会に行ってきました。講演の議題は女性の活躍と若者の活躍が会社を元気にする。まさに私にぴったりの講演会でした。その中で過去日本はデフレに悩まされ、コスト削減をして利益を出す経営手法がここ何年も続いてきました。コスト削減で一番してはいけない人材育成、人材研修までカットしたツケが今、企業を苦しめています。グローバル化の中で企業は非常に焦っている状況です。そういう時代だからこそ、人材の育成が大切。その中で英語の話せる人材の育成は急務ですが、英語を話せるからグローバルな人材というのは違う。世界では多様性、人と違う人に興味を持つ。日本人のアイデンティティーをしっかり持つこと。新浪社長への最後の質疑応答で、某大手企業のオーナーがこんな質問をされました。「私は小さな頃からの英語教育は反対です。中学から学んだらいいではないでしょうか？」その質問に新浪社長はこんな風に答えてらっしゃいました。「教育の答えはわからない。何が正しいかはわからないのです。私には2人の娘がおりますが、2人とも英語のイマージョン教育を受けさせました。正しいとか正しくないではなく、違うのです。そしてこれからの時代は英語は必要不可欠なのです。」　また、下村文部科学大臣も同じ質問に答えられていました。

▲サントリー 代表取締役社長　新浪 剛史氏と

▲文部科学大臣　下村 博文氏と

「世界はどの国で会議をしても必ずどの国の首相も英語でスピーチをされている。私も英語は上手くはないのですが、英語でスピーチをするんです。ですからしっかりと英語教育を入れていく事は必要不可欠だと考えています。」これからの時代のリタラシーは英語を自由に操ることができるかが重要なファクトになってきているのは認めざるを得ない事実です。しかし、気をつけなければいけない事は、日本人である事、しっかりとした日本人としてのアイデンティティーを育みながら英語の話せる国際人を育てていかなければならないんだと、新浪社長も大臣もおっしゃっていました。

関西国際学園の目指す教育はまさにそれなのです。

東京プリンスホテルでの博友会のゲストで講演された三越伊勢丹ホールディングスの社長、大西洋さんのお話では、これからは高齢化市場、規制緩和、特に農業の市場、外国人市場、女性活用に伴う市場である。絶対的価値の高い商品の提供など、イノベーションを起こさなければ、持続的成長はなく、営業適正化をはかり、社員が良いサービスができる環境を作ったり、女性活用のための男性社員のマインドを変えることが重要であること。社員の評価も安定を捨て変革したか、チャレンジしたか、変えたかということを評価基準にいれる。

下村文部科学大臣も日本は世界に誇れる自然と共生できる国。伊勢神宮や熊野大社。包みこむような共生の国であることから、新たな本の出版について話されていました。戦争ばかりしている国に訪れてもらったら、争うことがバカバカしく思うだろう。共生こそ21世紀に求められる思想である。そして、「2020年のオリンピックとパラリンピックをよい機会として日本がより良く変わるようにみんなで頑張りましょう」とおっしゃっていました。

▲文部科学大臣　下村 博文氏のご講演

国際バカロレア初等プログラム取得にむけて

IB コンサルタント訪問

今回の神戸校の訪問で、クラス見学、教師やスタッフとのミーティングなどを通してさまざまなフィードバックが得られた。探究学習の向上と全科目への浸透、日本人と外国人教師の協力体制の強化、評価体制の改革など、認定に向けての課題はいくつかあるが、「2年間でここまで変わった学校は見たことがない」との言葉をいただきました。「認定は100％間違いない」との太鼓判を受け、3月上旬の認定訪問に向けてIB東アジア太平洋地域事務局（シンガポール）と現在調整中です。

現在日本でPYPの認定を受けている学校は16校ありますが、全てが英語を指導言語とするインターナショナルスクールであり、日本語は週数回の専科にとどまっています。

日本語を指導言語としている学校ではまだ認定校がなく、予定通り今春に認定がくだれば、日本語及び日英バイリンガルでの導入は世界初となります。

▲中村学園長との対談

▲5・6年生の授業の見学

▲児童からのヒアリング

▲保護者との対談

世界初！日英バイリンガルでの認定へ加速！

1. 探究型・教科融合型の学習

PYPでは、特に理科と社会科の分野を、教科融合型の探究プログラムとして年間６つのユニットを通して学習するため、この中で指導要領を全て教科書の記載と同じ順序で進めることはほぼ不可能である。

2. 第二言語の学習

PYPでは、7歳以上の全児童が第二言語を学ぶことが必須条件であるため、英語がまだ科目化されておらず、小学校の英語教師もいない環境では実施は不可能である。外国人講師を招聘するにしても、単独で教えるには日本の小学校教諭免許が必要という弊害がある。

3. コーディネーター

IBのプログラムを導入するにはコーディネーターが必要である。PYPはどの言語でも導入可能だが、IBの事務局とのコミュニケーションは基本的に英語である（フランス語、スペイン語も可）。日本の教育を熟知しつつ英語で国際バカロレア機構とコミュニケーションが取れるような人材はなかなかいない。外国人を招聘した場合でも、IB導入に係る数多くの変化を日本の教育現場で実現できる日本語力とリーダーシップが必要になる。

4. 日本語の研修体制

児童の興味・関心を中心に知識や概念を深めていく探究型の授業を実践できる教師の育成が進んでいない。PYP学習の質は教師の力量に大きく左右されるが、知識を伝えることだけを求められてきた教師たちには急激な意識改革が求められる。また国際バカロレア機構が定期的に行うワークショップも日本語のものは限られていて、日本語で研修ができるIB公認のワークショップリーダーはPYPの方針や理念を記したドキュメントはほとんど日本語に訳されておらず、和訳はDPが優先されているのが実態である。

ハンガリー国立大学医学部 説明会ご報告

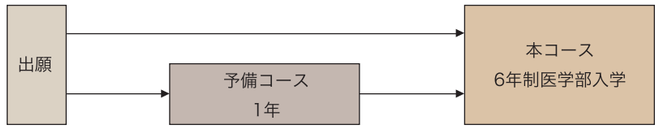
H26.10.20 茶話会資料

ハンガリー国立大学医学部説明会報告

日時: 平成26年10月11日13: 30〜16: 30
場所: ハービス PLAZA5F

内容:
ハンガリーの国立医大(国立センメルワイス大学、国立ペーチ大学、国立セゲド大学、国立デブレツェン大学)の日本人学生の受け入れについて

Ⅰ. 出願から入学までの流れ



募集定員: 各大学とも予備コース20名、本コース5名
予備コースから本コースへの進学の合格率は90%

審査内容:＜予備コース＞
書類審査
筆記審査 ①英語(リスニング、文法、読解)
②生物、化学、物理の中から2科目(日本語)
面接審査
＜本コース＞
面接審査(日本語)
筆記試験(英語)①決められたテーマの作文
②選択問題(英語60問、生物20問、化学20問)
口頭試問(英語) 生物、化学に関する質疑応答
※デブレツェン大学は筆記試験、口頭試問の内容が異なります。

Ⅱ. 日本の医師国家試験
・ハンガリー国立医大の卒業認定と同時に EU圏内で通用する医師免許を取得。
・日本の医師免許取得の流れ
帰国後に厚生労働省へ申請し、書類審査と日本語診療能力調査を受け、医師国家試験の受験資格を得る
→ 医師国家試験受験 (1期生が6名中4名合格)

※11月22日、2月11日、3月14日と同じ説明会が開催されます。

日本の大学の IB 入試情報

文部科学省・国際バカロレア普及拡大広報
(大臣官房国際課国際協力企画室) Facebook より

＜IB入試情報１＞

【順天堂大学:平成27年度入試より、医学部国際臨床医・研究医枠入学試験に「国際バカロレア入学試験」を新設】

順天堂大学は、医学部において、平成27年度入学試験より、国際臨床医・研究医枠入学試験にAO入試として「国際バカロレア入学試験」を新設することになりました。

＜IB入試情報２＞

【岡山大学:平成27年度入試から全学部全学科で「国際バカロレア入試」を実施】

岡山大学は,平成27年度入試(平成27年4月入学者対象)から、理工系学部だけでなく、すべての学部学科で『国際バカロレア入試』を実施することを発表しました。

この入試では,国際バカロレア資格取得者を対象に,書類選考のみ(一部の学部を除く)で入学資格を与えることが可能となります。

＜IB入試情報３＞

【早稲田大学:2016年度以降のAO方式による入学試験の変更(概要)】

早稲田大学は、政治経済学部において、AO方式による入学試験について、求める学生像をより明確にするため、2016年度より名称を「グローバル入学試験」に改めるとともに、それに伴う出願資格・試験方式等を変更します。

政治経済学部では、これまでも本AO方式による入学試験において、各種証明書として国際バカロレアを含む海外の大学入学資格試験・統一試験の結果に関する証明書を受け付けておりますが、今後日本国内や広く世界から募集します。

＜IB入試情報４＞

【慶應義塾大学:平成27年度4月入学以降のAO入試変更(概要)】

慶應義塾大学は、総合政策学部及び環境情報学部において、平成27年度4月入学以降のAO入試に、新たに国際バカロレア資格を取得した者及び取得見込みの者を対象とした「IB方式」を導入することを発表しました。

IB方式の新試験は、4月入学Ⅰ期、4月入学Ⅱ期、9月入学試験の年3回実施されることになります。

選考は書類選考と面接試験にて実施されます。

学園長 著書より

「ノブレス・オブリージュ(noblesse oblige)の実践」

去年の春のことです。ある学校を訪ねたことがあります。東京・新宿からほど近い場所です。

そこでは、発達障害や不登校、ひきこもりなどの問題を抱えた子どもたちが学んでいました。子どもたちの多くは養護学校に通うほど重度の障害ではないけれど、通常の学校生活にはなかなか馴染めない子どもたちばかりです。"人との距離"というものがわかりにくいため、その学校で社会性を学んでいくのだといいます。こんなことがあったそうです。

「人に会ったら、挨拶をしましょう」先生が子どもたちにそう教えました。するとある日、ひとりの生徒が血だらけで登校したそうです。人に殴られたようです。事情を聞くと、先生にいわれた通り、道で会う人に挨拶をしたのに、挨拶をしてくれなかったので何度も挨拶をしたら殴られたというのです。先生はもう一度子どもたちにいいました。

「先生は嘘をいっていました。知っている人に会ったら、挨拶をしましょう」すると、学校見学の日のことです。見学に来られた方々に、子どもたちはまったく挨拶をしなかったそうです。先生がまた子どもたちを集めていいました。「先生は嘘をいっていました。学校内で会った人には、挨拶をしましょう」あたりまえのことを、教えるという困難さ。それはとても手間と根気と愛情のいる仕事です。

子どもたちも先生たちも、失敗を繰り返し、試行錯誤のなかで学んでいくのです。すごく純粋なのです。

その学校で、卒業生のスピーチを映したDVDを見せていただきました。「僕はずっとひとりでした。友だちもいなくて、いつもいじめられていました。死のうと思ったことも何度かあります。でも、ここに来て、先生や友だちができたから、頑張って生きていこうと思いました」私は映像を見ながら、涙が止まりませんでした。

不条理なことや不平等なことがあっても、前向きに生きようとする姿に心が震えました。ひとりでも多くの子どもたちが希望を持って生きていけるように、教育の場はそのきっかけをつくるべきなのでしょう。

ところが、障害が軽度であったり、人にそれを理解してもらえなかったりするため、こうした子どもたちへの対応は国の施策から見落とされがちです。その学校には小学部から大学部まで整備されているのですが、国の助成金はいっさい受けていません。

関西国際学園もそれは同じです。私たちの学園とは、担うべき役割は違っていても、この時代、この社会には、とても必要な教育ではないでしょうか。

「ノブレス・オブリージュ(noblesse oblige)」という言葉があります。

このフランス語は200年ほど前から使われ始めたもので、直訳すると「高貴さは義務を負う」という意味です。もうすこしわかりやすくいえば、王侯貴族など特権的な地位にある者は、それにふさわしい義務を果たさなければならないということです。言葉自体は比較的新しいものですが、考え方そのものはヨーロッパ社会に古くからあったものでした。

古代ローマ時代にはすでにこうした社会規範があって、貴族たちは、私財を投じて道路や建物といったインフラ整備をおこない、戦争が起これば率先して最前線で戦ったとされます。こうした行為を義務ととらえると窮屈ですが、ボランティアと考えればもうすこし自発的なニュアンスが伝わるのではないでしょうか。王侯貴族のいないアメリカでも、大きな災害などの際には富裕層や著名人らが、多額の寄付金や救援物資の手配をおこないます。それは当然のこととされ、名前も明かさないことが多いのです。

単純に日本社会と比較するのは危険ですが、日本的な助け合いの社会が崩れていくなかでは、参考にすべき点は多くあります。

少なくとも、自分さえよければいいという偏狭な考えでは、いずれ人から愛想をつかされてしまいます。

「子どもを英語バカにしない学校」 中村 久美子 著　ダイヤモンド社より